

抱樸館を支える会 会報

45号



2020年12月1日発行:抱樸館を支える会

コロナ禍におけるホームレス支援の現場より

～NPO 法人かごしまホームレス生活者支えあう会～

鹿児島市でホームレス支援を行うNPO法人かごしまホームレス生活者支えあう会を訪問し、理事長の堀之内洋一さんと理事の久永雅仁さんに話を聞きました。

—ホームレス支援を行うようになったきっかけを教えてください。

「2004年に鹿児島では珍しく大雪が降りました。ある方の幼い娘さんが『近所の公園にいる、おじちゃんたちは大丈夫かな』と心配し、それを聞いて大人も何かしなければと、衣類の提供を市民に呼びかけたことがあり、そこから色々な活動が広がり、ザビエル教会が炊き出しを始め、そこに私たちも参加したのが直接的なきっかけとなりました」

—炊き出しは週に何回していますか。

「炊き出しは週に3回しています。全国的にみても週に3回も炊き出しを行っている団体はあまりないと思います」

—炊き出しの食材はどのようにしていますか。

「グリーンコープさんからは日曜日の食事会用の玉ねぎ・ばれいしょ・人参をいただいています。それ以外では、農家の方々とつながりでお米をいただいたり、フードバンクからも提供いただいています」

—炊き出しや夜回りについて教えてください。



堀之内理事長



久永理事（事務局長）

「当番の理事と職員3名とボランティアの皆さんと一緒に活動しています。コロナの影響もあり、ボランティアの人数は極力少なくしています。対象者の人数は、炊き出しは10名弱で、夜回りは12名ほどです。最近は、生活保護を受けるようになった方もいて、お会いする方は少なくなりました」



炊き出しの様子



夜回りの様子

—新型コロナウイルスの影響はありましたか。

「コロナの影響を受けてホームレス生活を余儀なくされた方を支援したのは、累計で6名です。コロナの影響が顕著に表れているようには感じませんが、新しくホームレス生活をされる方は確実にいます。今後、コロナの影響がどのように出てくるのかはまだわかりませんね」

—今後やりたいことを教えてください。

「地域で人とのつながりを充実させていきたいです。料理教室を月に一度行っていますが、皆さんこの日を楽しみにしています。一方、コロナ禍で外出機会が減り認知症状が進んだ方もいます。ホームレス生活からアパートに入ることで社会的孤立が進まないよう、地域とのつながりや地域での役割がもてるようにしたいですね」

—ありがとうございました。

居住支援を通じて地域づくりを行いたい

NPO法人やどかりサポート鹿児島

やどかりサポート鹿児島は、2007年に設立されたNPO法人です。障がい、生活困窮、高齢等のために、賃貸住宅に入居する際に必要とされる連帯保証人を確保することができず、支援を必要とする方々に対して、連帯保証を提供する事業を行っています。今回、理事長の芝田淳さんと社会福祉士の中村真矢さんに話を聞いてきました。

— やどかりサポート
鹿児島の活動について詳しく教えてください。

「地域で安心して暮らすことの大前提は、住まいがあることです。住まいがあるという、そんなごく当たり前のことが様々な障壁によって叶え

られない方がたくさんいます。やどかりサポート鹿児島では、住まいの確保の際、連帯保証人がいないために地域で暮らすことが困難となっている方へ連帯保証の提供を行っています」

— 普通の連帯保証とは少し違いがあるようですが、どのような違いがありますか。

「やどかりが行っている連帯保証は『地域ふくし連携型連帯保証提供事業』といいます。連帯保証の多くは債務を保証するだけという場合が多いのですが、私たちは、連帯保証が必要とされる方に対して支援者（医療機関や福祉機関）がいることを条件としています」

— なぜ支援者が必要なのでしょうか。

「『家族とのつながりが切れている』『収入がなくなり家賃が払えないため退居するようになった』『高齢で保証人がみつからない』等々、社会的困難な課題を抱えた方に対して、通常の連帯保証だけを行っても、何の解決にもつながらないと思います。そのような方々が、孤立せず地域で社会生活を営めるよう地域福祉を担う医療関係者、福祉の関係者による見



芝田理事長

守りや相談に乗るなどのサポートが必要であると考え、地域福祉の担い手と連携して『つながり』を提供しています。この地域ふくし連携型連帯保証を提供することで、利用者の方々が地域でふつうの暮らしを実現し、社会的に孤立することなく、社会とのつながりや自らの役割をもっていきいきと生活できるよう支援していく事業です」

— この事業を行うに至った経過を教えてください。

「当初はホームレス支援に携わっていましたが、ホームレス支援を行うなかで『障がい』を抱えた方が多いことを知りました。また、精神疾患によって入院していた方が退院する際に住まいを探すことが非常に困難であるということを知りました。このような方々が安心して地域で社会生活を送ることができるような仕組みをつくりたいと考えました。2019年2月時点ですが、延べ311名の方が利用されました。現在利用している方は163名となっています」

— やどかりハウスについて、当事者同士の支援（互助会）について教えてください。

「私たちは、やどかりハウスという暮らし方の提案をしています。やどかりハウスとは、お互いに助け合う暮らし方を表現しています。連帯保証人が得られないなど社会的に孤立している当事者が互いにつながりあい、支えあい、助けあうことで、社会におけるつながりと役割を持って豊かで安定した生活を送ることができるようにすることです。当事者である互助会のメンバーが主体となって、支えあい、助けあいを行っています。



中村 真矢さん

の職員は、当事者同士で解決できないような問題が起きたときなどに介入しますが、基本的には、見守るような形です」

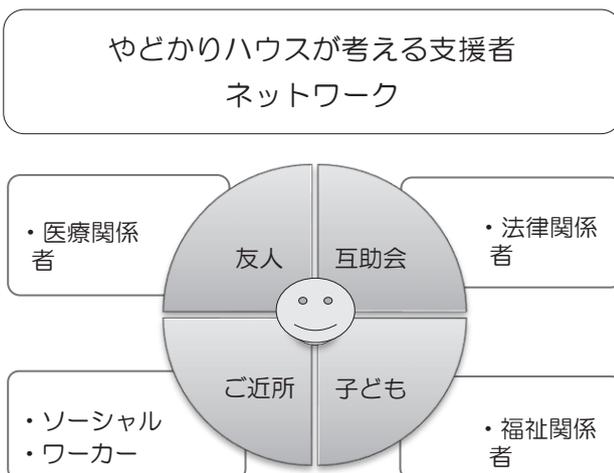
――互助会ではどのようなことをされていますか。

「互助会で実際に起きていることとして、入院支援があります。仲間が入院するときに、入院時の荷物運びをする、お見舞いに行く、病状の説明を一緒に聞く、手術に立ち会う、必要なものをそろえる、退院の時はみんなで迎えにいった、本人の家まで一緒に帰るということを行いました。入院された方が『一番嬉しかったのは、心配してくれる人がいたことでした』と後日言われていました」

「また、部屋がごみ屋敷となってしまう、片付けができない方には、6～7人くらいで訪問し、みんなで大掃除を行いました。その日の夕方にはきれいに片づけてしまいましたね。それ以外には、お亡くなりになられたときですが、身寄りがない方は、誰にも見送られないケースも少なくありませんが仲間が15人も集まりみんなで見送りしました」

――互助会の良い点はどのようなことでしょうか。

「当事者を支えるネットワークは、一般的なイメージとして、当事者を中心に専門職である社会福祉士や精神保健福祉士、看護師、医者、司法書士の方々がサポート役となり、その後、友人やご近所さんがいると思います。しかし、やどかりハウスは、全く逆となっており、当事者を中心にまずは友人や互助会、地域の方々がサポートを行っています」



「これの良いところは、なんでも言いやすい関係性がつくれることです。支援者と対象者の関係性だと、対等の立場ではない場合があります。そのために、言いづらいことや言いたくないことがあったりします。でも、当事者

同士の関係だと、些細なことでも言いやすいんですね。ただ、当事者同士で解決できない問題にあたった場合は、専門職の方に手伝ってもらいながら、問題を解決していきます」

「あと、これは、やどかりライフの参加者からの実際の声ですが、互助会のメンバーが訪問しに来た時『訪問しにきたんじゃない！遊びに来たんだ』と言われたことがとても心に残っているそうです。また、今の生活になるまでには本当にたくさんの方に助けてもらった。今度は、自分が困った人を助けたいといわれました」

「また、当事者の中には、いろいろな事情を抱えた方が多くおられます。実際、ホームレス生活から脱却し家のある生活を送っていても、再びホームレスに戻ってしまう方もいます。しかし、互助会のメンバーのみなさんは、その割合が非常に少ないです。理由は、今回ここで得た仲間とともに過ごす生活を守りたいと思っているからですね。実際に、当事者の声として『何度か失敗を繰り返してきたけど、今回はうまくいきそうだと感じています』という声もありました」

――今後やりたいことなどあれば教えてください。

「これまでホームレス支援を行い、次に居住支援を行うようになりましたが、制度の枠に入らない方、これから社会的に孤立しそうな方、要介護まではいかないような単身高齢者などを対象に、助け合い、支えあいをコンセプトとした住宅提供ができるようなサービスをしたいですね。その一つの良い例となるのですが、鹿児島で面白いシェアハウスがあって、高齢者と福祉の勉強をしている若者とが一緒に生活しているんです。若者が高齢者の見守りをしながら住むことで、高齢者は単身で住むよりも安心して住むことができ、若者は勉強も兼ねて生活をするができます。もちろん、家賃は少し安くなります。お互いに支えあいながらの生活ができるわけです。そこに新しいコミュニティが生まれるわけですね。当事者主体の活動を続けていく中で、新たな発見や取り組みに期待しつつ、この取り組みが様々な地域に広がるよう情報発信を行い、当事者の方々とともに活動をしていきたいと思っています」

――ありがとうございました。

グリーンコープの子どもの居場所づくりの現場から

～名島・片縄げんきもりもりハウス取材してきました～

社会福祉法人グリーンコープでは、子どもたちが安心して過ごせる居場所を地域に広げていきたいという思いから、北九州市小倉北区の「日明げんきもりもりハウス」、福岡市東区名島の「名島げんきもりもりハウス」、那珂川市片縄の「片縄げんきもりもりハウス」を設置しています。今回、2箇所（名島、片縄）に訪問し、子どもの居場所について話を聞いてきました。

名島げんきもりもりハウス

社会福祉法人グリーンコープが運営する幼保連携型認定こども園「名島りすの森こども園」

のすぐ隣に2019年11月にオープンしました。1年が経過して、これまでの様子を管理者の大橋由美子さんとスタッフの吉次真紀さんに話を伺ってきました。



手前：げんきもりもりハウス
奥：名島りすの森こども園

—名島げんきもりもりハウスができた経過を教えてください。

「この場所には以前、名島幼稚園があったのですが、閉園に伴ってグリーンコープが地域に根差した子育ての場所を引き継ぎました。また、名島りすの森こども園を開所したこともきっかけになりました」

—何人くらいの子どもたちが遊びに来ますか。

「名島げんきもりもりハウスが開いているのは、月、水、土の13:00から17:00です。1ヶ月の延べ人数では50人くらいで1日平



左：大橋さん、右：吉次さん

均4～5人の子どもたちが遊びに来ます。子どもたちが来る日数は様々で、ほとんど毎回来る常連さんから週に1回、月に1回と様々です。これまでに約80人くらいの子どもの来ています」

—子どもたちは何をして過ごしていますか。

「基本的にここでの過ごし方は自由してもらっています。本を読んだり、工作をしたり、宿題をしたり友達と遊んだりしています。最近の流行りは、鬼滅の刃に出てくるキャラクターが使っている刀を工作することですね。出来上がった作品を一度家に持ち帰って、再びここに持ってきて、手を加えて作っての繰り返しで特に男の子たちは夢中になって作っています」

—スタッフの関わりで意識していることはありますか。

「ここでは、スタッフはしつけや指導をするのではなく、子どもたちと遊んだりしながら、見守り、話を聞き、関係を築いていきます。安全に安心して楽しく過ごせるようになると、子どもたちがふとした拍子につぶやく一言があります。そこにこそ、子どもたちからのメッセージがあると考え、それを聞き逃さないようにしています」



—今後やりたいことを教えてください。

「新型コロナウイルスの影響を受け、手作りのご飯やおやつを提供を控えています。三密を避ける、手洗いやアルコール消毒など感染防止対策を徹底しています。この状況が落ち着いたら、子どもたちと一緒にご飯やおやつ作りをしたいですね。そして、その経験が自宅でも活かせることになればいいと思います」

—ありがとうございました。

片縄げんきもりもりハウス

那珂川市片縄にある「片縄げんきもりもりハウス」管理者の辻恵美さんとスタッフの村上貴子さんにお話を聞きました。

—いつから活動していますか。

「活動が始まったのは2018年11月からですので、子どもの居場所がオープンして丸2年になりました。開所日は月、木、土の13:00から17:00までで、4月から9月の期間は18:00まで開けています」



片縄げんきもりもりハウス

—何人くらいの子どもたちが遊びに来ますか。

「今はコロナの影響もあって少なくなりましたね。少ないときは、1人、2人しか来ない時もありますし、10人くらい来るときもありますね。今まで総勢100人ほどの子どもたちが遊びに来ています。昨年の夏休みの時期だったのですが、最高で1日に36人の子どもたちが遊びに来たこともあり、その時はとっても大賑わいでした」

—子どもたちは何をして過ごしていますか。

「過ごし方は自由ですので、みんな好きなことをして過ごしています。宿題をしたり、折り紙や工作、ボードゲームなどをしたりして過ごすことが多いですね。この家は8LDKととても広いので、かくれんぼをしたりするのも流行っていますね」



—子どもたちと関わる中で、大切にしていることはありますか。

「むやみに否定をしないようにしています。たとえば、靴が玄関に散乱していたとき、注意をするのではなく『靴がきれいに並んでいたら気持ちがいいよね』と声をかけて一緒に並べたり、荷物が部屋中に置いてあることがあったので、荷物を入れる箱を準備して、そこにに入れてもらえるように声かけをしたりして、

指導ではなく、工夫をして子どもたちと関わるようにしています。あと、子どもたちの話をしっかり聴くことですね」

—これまでで印象的なことを教えてください。

辻「いくつかありますが、恥ずかしがりやの子どもが手紙を私にくれたことがあって、中には『辻さんいつもありがとう』と書かれていた時や、二人きりになったときに『今日友達と喧嘩をして泣いたんだ』と悩み事を相談してくれたり、『お母さんがまだ家に帰って来てなくて寂しいからもう少しここにいてもいい?』と話してくれたりした時など、本人にとってここが必要なんだということを改めて感じる時ですね」



左：村上さん、右：辻さん

村上「子どもたちの成長を感じたときですかね。ついこの前までゲームをしていても理解ができなかった子どもがしっかりと理解できて、さらに他の分からない子どもたちも受け入れて、教えながら一緒になって遊んでいる場面をみると成長したなあと感じます。

宿題も同じで、ひとりで考えても分からない問題でも、友達と一緒にすること



で問題が解けて、出来なかったことが出来るようになる様子を見ると嬉しいですね」

—今後やりたいことを教えてください。

「那珂川市役所のこども応援課に行ったときに、10代のお母さんの居場所がほしいという話を聞きました。ここは13時から開いているので、そんなお母さんたちの居場所にもなれたら良いなと思っています。また、不登校だったり、大勢の中に入るのが苦手な子どもたちがここに来て、安心して過ごすことのできる居場所になれたらいいなと思っています」

—ありがとうございました。

抱樸館福岡の畑でたのつ・りすっこの園児と芋ほりをしました

～子どもたちは元気な笑顔でがんばりました～

11月23日に抱樸館福岡の隣にある、たのつ・りすっこ保育園の子どもたちと抱樸館福岡の畑で芋ほりを行いました。抱樸館福岡と保育園の初めての芋ほりです。たのつ・りすっこ保育園の春木園長と抱樸館福岡相談員の篠原さんに話を聞きました。

――抱樸館のお誘いで芋ほりが実現したそうですね。

「はい。保育園の庭は抱樸館のように広くないので、抱樸館の池田館長より芋ほりのお誘いを受けて、先生含め、子どもたちもとても楽しみにしていました」



――子どもたちはとても楽しそうに芋ほりをしていました。

「新型コロナの影響で、外に出る機会が少なくなっていたので、外での活動はとても楽しかった様子でした。自分の顔より大きい芋を掘って、誇らしげにカメラに向かってポーズを決める子、わき目もせらずに必死で芋ほりをする子、中にはいつ

もの外遊びと違う雰囲気なので泣いてしまう子もいましたが、土に植わっている芋を実際に見て、芋にはひげが生えていたり、いくつもつながって取れたりすることを初めて知ることができて、とても良い経験になったと思います。持ち帰り用の芋を準備していただいたので、お家に帰って芋ほりの話で盛り上がったご家庭も多かったと思います」



――たのつ・りすっこ保育園での今後の抱負を教えてください。

「たのつ・りすっこ保育園では、地域の方々と触れ合いながら、仕事、子育て、そして家事

に忙しいお母さんやそのご家族が安心して生活ができるよう、また、子育てで保護者が悩んでいるときは、よき理解者となって寄り添い、保護者とともに子どもたちの成長を見守る存在でいたいと思っています」

続いて、抱樸館福岡の相談員の篠原さんに話を聞きました。普段は抱樸館卒業生の支援や園芸部のサポートをされています。

――この芋は卒業生を中心に育てられたそうですね。

「抱樸館福岡の中庭には小さな畑があり、毎年、野菜などを栽培していました。この畑は、えにし会の（抱樸館の卒業生で構成される互助会）が中心となってお世話をしています。今年は、6月に金時芋と安納芋の苗を植え、近くに住むえにしの会の園芸部メンバーや抱樸館福岡職員の有志が水やりなどの手入れをし、一生懸命、育ててきました」

――芋ほり前日は雨だったのですが、今日はとても良い天気で芋ほり日和でしたね。

「芋ほり予定日の前日は1日中雨が降っていたので、畑の状態が悪いのではないかとみんなで心配していましたが、幸いにも芋を掘るのに丁度よいくらいの土の柔らかさになりました。子どもたちだけでなく、先生方も含めてみんなが笑顔で芋ほりをする姿を見て嬉しく思いました。えにしの会の皆さんにも写真を見ていただこうと思います」

――今後やりたいことを教えてください。

「来年の芋ほりはもっと楽しんでもらえるよう、たくさん育てたいと思います。また、今回は保育園と一緒に行いましたが、コロナが収束すれば、抱樸館の入居者や卒業生を交えて地域の方々とも連携しながら、何かしらのイベントができればと思います」



――ありがとうございました。

抱樸館熊本の新館長 前田宗範さんにお聞きしました。

2020年、新型コロナウイルスが世界的に流行するなか、熊本県、熊本市より一時生活支援事業を受託している抱樸館熊本は例年以上の新規入居者を受け入れています。このような中、今年4月より抱樸館熊本の館長に着任した前田宗範さんに話を聞きました。

—グリーンコープ生協くまもとで長年働かれていたそうですが、前田さんの経歴を教えてください。

「大学を卒業して1年後にグリーンコープ生協くまもと（当時は共生社生協）に就職しました。配達担当から始まり、センター長や地域部長として働いた後、グリーンコープ生協連合会の商品部でパンと酒の担当をしていました。その後、グリーンコープ生協くまもとに戻り、グリーンコープでんきの担当常務と地域常務を兼任していました。36年勤めた生協を今年の3月末で定年退職し、4月から抱樸館熊本で館長をしています」



—ホームレス者・生活困窮者支援の業務は初めてと聞きました。

「抱樸館熊本では熊本県と熊本市から受託する一時生活支援事業（※）が業務の中心で、相談窓口から入所される方々への支援が主となっています。ホームレス支援というとNPO法人抱樸さんが取り組むホームレスへの炊き出しをイメージしていたので、実際の業務は全然違いました。また、着任した時期は熊本市内でも新型コロナウイルスの感染者が増加し厳戒態勢でしたので、対人支援業務に加えコロナ対策など初めてのことばかりで大変でした」

※ 一時生活支援事業とは・・・

住居をもたない方、またはネットカフェ等の不安定な住居形態にある方に、一定期間、宿泊場所や衣食を提供します。退所後の生活に向けて、就労支援などの自立支援も行います。

—対人支援の現場で働き始めての感想を教えてください。

「依存症が疑われる方、障がいを持っているのではと思われる方など、入所される方は様々な事情を抱えた方がいるんだというのが率直な感想です。また、ホームレス者や生活困窮者というと高齢者をイメージしていましたが、意外と若い方が多いなと思いました。その他、単身の方だけではなく家族で入所している方がいることに驚きました」

—新型コロナウイルスの影響はありますか。

「抱樸館福岡ではあまり影響がないと聞きましたが、抱樸館熊本は10月末時点での入所者が前年比112%、入所延べ日数は前年比163%です。新型コロナウイルスの影響で寮付きの仕事が無くなり住む場所を失った方、ネットカフェが営業を中止したため寝る場所が無くなった等の直接的な原因で入所した方は10人という様子です。今年は10代の方も入所するなど若い方の入所が多いことや女性の入所が増えたことも特徴的です」

「また、アフターフォローについても、高齢者の方が多いため感染防止を意識して対面でのフォローは極力控え、電話による安否確認を中心に行っています。その他、これまで年に2回、春と秋に卒業生を対象とした交流会を実施していましたが、これも中止しています」

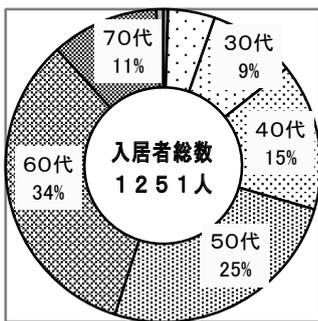
—今後やりたいことを聞かせてください。

「2020年度より無料低額宿泊所に対する熊本市条例が制定され、条例の基準に合わせるため2室増室して計5室の無料低額宿泊所を設置しています。ただし、2室が空室のままとなっていますので、まずは空室を無くすことに取り組みたいと考えています。また、抱樸館熊本の共用室を地域で生活する卒業生のサロンとして活用する計画もありましたが、これもコロナの影響でできていません。コロナが収束すればすぐ活用できるよう準備を進めたいです。そのほか、外出自粛する卒業生の方が地域で孤立しないように今年できなかった交流会をなるべく早く開催したいですね」

—ありがとうございました。

抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2020年10月末までの入居者



	人数	割合
10代	6	0.5%
20代	63	5.0%
30代	109	8.7%
40代	189	15.1%
50代	314	25.1%
60代	419	33.5%
70代	142	11.4%
80代	9	0.7%
計	1251	100%

2020年10月末現在の入居者

54人(定員81名) 男性54名、女性0名

2020年9～10月の新入居者数・退居者数

新入居者数16名 退居者数18名

(注: 4月末までの入居者数1251名は、
2度・3度入居した人も1名と数えています。)

抱樸館北九州の入退居の状況は、特集の際にご案内します。

抱樸館福岡の見学のご案内(現在、中止中)

- ・抱樸館福岡を身近に感じていただき、ホームレス問題を深く知っていただくために、広く見学を募ってきました。多くの方が見学に訪れてくださり感謝申し上げます。
- ・大変残念なことですが、現在コロナ禍のため、入居者の健康を最優先し、見学を中止しています。
- ・状況が変わりましたら、会報やホームページ等でご案内を再開させていただく予定です。ご了承下さい。

抱樸館を支える会の概要

抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日: 抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員: 以下の17団体が正会員です。

- グリーンコープの各単協(14生協)
- グリーンコープ連合会
- NPO法人 抱樸(旧: 北九州ホームレス支援機構)
- 社会福祉法人グリーンコープ

賛助会員

2020年10月末の賛助会員は、以下の通り

- グリーンコープの共同購入組員 9,829名
- グリーンコープの店舗組員・一般の方 179名
- 企業賛助会員 103社

その他(抱樸館の所在地)

- 抱樸館福岡(福岡市東区) 2010年 5月開所
- 抱樸館北九州(北九州市八幡東区) 2013年 9月開所
- 抱樸館下関: 新たに開設を準備中
- 抱樸館熊本(熊本市中央区) 2018年12月開所

抱樸館を支える会 賛助会員と会費について

抱樸館を支える会 賛助会員募集

賛助会員を募集しています。
賛助会員には、会報をお届けします。

グリーンコープの共同購入組員

賛助会員の申込には2つの方法があります。

- ①毎月250円の賛助会費を申し込みいただく(年間で3000円です)

毎月の商品代金と一緒に引き落としとなります。
共同購入申込書の「1300」で申し込みください。

- ②101000円の賛助会費を申し込みいただく。
何口でも申し込み出来ます。

申し込みいただいた月の商品代金と一緒に一括して引き落としとなります。

共同購入申込書の「1299」で申し込みください。

賛助会員は一度申し込みいただくと毎年更新されますので新たに申し込みいただく必要はありません。(グリーンコープの共同購入組員の場合)

- ①の賛助会員は毎月継続して250円請求させていただきます。②の会員は申し込みいただいた月に毎年一括して請求させていただきます。

一般の方、グリーンコープの店舗組員

101000円の賛助会費を何口でも申し込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 01710-0-123003

一般社団法人 抱樸館を支える会

企業賛助会員 募集中です

企業賛助会員は、会費が1010,000円です。出来れば30(30,000円)以上でお願いします。申し込みは、下記へ。

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号

社会福祉法人グリーンコープ内

電話 092-482-1964

抱樸館の連絡先

抱樸館福岡 (電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772)

〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州 (電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705)

〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-11

抱樸館熊本 (電話 096-245-7521 FAX 096-245-7522)